

# 2014年度版ソフトバレーボール競技規則 改正に伴うQ & A

日本ソフトバレーボール連盟審判規則委員会では、毎年度競技規則に関するQ & Aを作成し、多くの方々にご理解いただけるよう努めているところです。

そこで、2014年度版競技規則の改・修正に伴い新たに想定される疑義等を、予め「想定Q & A」としてまとめることで、愛好者の方々へのご理解の促進と新年度における大会運営の円滑化を図ることを目的に作成したものです。

**2014. 2. 26**

**日本ソフトバレーボール連盟審判規則委員会**

改正内容	
競技規則 II-2-(3)-2)-③	◆チームキャプテンの権利と義務 チームのポジションが正しいか確認することができる。
Q & A	
チームキャプテンはベンチにいても確認行為が行えるか。	<p>○チームキャプテンは、あくまでも試合中コート内にいる場合に限りゲームキャプテンとして権利の行使ができます。</p> <p>○ベンチにいるチームキャプテンが確認を要求した際は、不当な要求として却下しますが、繰り返しの要求による不法な行為としての罰則適用に発展することを抑止するため、却下と合わせてゲームキャプテンが行うよう口頭指導します。</p> <p style="text-align: right;">ルール：II-2-(3)-2)・III-5-(4)-②</p>
サービス順の確認はできるか。	<p>○確認できます。</p> <p>○ポジションの確認行為に含まれます。</p> <p style="text-align: right;">ルール：III-4-(1)-1)・III-4-(2)</p>
確認を行えるタイミングは。	<p>○ボールデッド後、サービス許可の吹笛までに行わなければいけません。</p> <p style="text-align: right;">ルール：III-5-(3)-1)・III-5-(4)-①</p>
記録員に直接ポジションの確認を行えるか。	<p>○記録員への確認行為は認められません。</p> <p>○コート上にいるゲームキャプテンとして認められる行為であり、速やかな確認行為を行うには副審または主審に確認することになります。</p> <p style="text-align: right;">ルール：II-2-(3)-2)</p>
ワンプレー毎に確認が行われた場合の措置はどうか。	<p>○同行為が執拗に繰り返され試合の遅延につながると判断される場合、当該審判員はチームの監督やチームキャプテン(ゲームキャプテン)に口頭での注意を行い、その後も繰り返され場合は「遅延行為」として取り扱う旨を喚起し、罰則行為への発展を未然に抑制してください。</p> <p>○選手は競技規則を遵守しフェアプレーに基づいた行動を行うことが義務である以上、自らのチームのローテーション等はある程度把握しておくべきです。</p> <p style="text-align: right;">ルール：III-5-(4)-注釈・II-2-(1)-1)</p>
審判に確認したポジションが間違っていて、アウトオブポジションの反則となった場合の責任は誰にあるか。	<p>○チームの責任です。</p> <p>○審判はポジションの確認を行うだけで、チームのポジションの管理はチームの責任です。</p> <p>○主審・副審は不要な混乱を招かないよう、記録員にも確認を行的確なポジションを回答するよう心がける必要があります。</p> <p style="text-align: right;">ルール：II-2-(1)-1)</p>

改 正 内 容	
<p>競技規則 Ⅲ-5-(4) Ⅲ-5-(4)-注解②</p>	<p>◆不当な要求 次のようなタイムアウトや選手交代の要求は不当であり、拒否される。 ①ラリー中に要求したとき ②サービス許可の吹笛と同時か吹笛後に要求したとき ③要求する権利のない者が要求したとき ④選手交代を、競技の再開を待たずに連続して要求したとき ⑤規定回数を超えて要求したとき</p> <p>注解： ①不当な要求であっても、競技に影響を及ぼさず、また、試合の遅延とならないならば拒否される。 ②不当な要求が明らかに試合の遅延目的の要求であると主審が判断した場合は、不法な行為に対する罰則段階表、軽度の不法な行為区分の罰則を適用する。</p>
Q & A	
<p>ベンチにいるチームキャプテンから不当な要求が繰り返された場合のどうするか。</p>	<p>○ゲームの遅延目的と判断され、軽度の不法な行為の罰則規定の取扱いをします。 ○不当な要求として却下しますが、繰り返しの要求による不法な行為としての罰則適用に発展することを抑止するため、却下と合わせてゲームキャプテンが行うよう口頭指導します。</p> <p style="text-align: right;">ルール：Ⅱ-2-(3)-2)・Ⅲ-5-(4)-②</p>
<p>監督がプレーヤーとしてコート上にいるが競技中断の要求はできるか。</p>	<p>○不当な要求として却下しますが、繰り返しの要求による不法な行為としての罰則適用に発展することを抑止するため、却下と合わせてゲームキャプテンが行うよう口頭指導します。 ○監督としての権利が行使できるのは、ベンチにいる時のみで、コート上から競技中断の要求を行えるのはゲームキャプテンだけです。</p> <p style="text-align: right;">ルール：Ⅱ-2-(2)-2)・Ⅲ-5-(4)-②</p>
<p>選手交代回数を越え、選手交代を要求した際の取扱いはどうするか。</p>	<p>○不当な要求として却下します。 ○不当な要求の再発を抑止するため、規定の選手交代回数を越えていることを伝えます。</p> <p style="text-align: right;">ルール：Ⅲ-5-(4)-②・Ⅲ-5-(2)-1)</p>
<p>監督がベンチよりサービス許可の吹笛前にタイムアウトや選手交代を要求したが副審が気づかずインプレーになった場合はどうなるか。</p>	<p>○ベンチからの要求に気づかずにサービス許可の吹笛を行った場合、その要求行為は不当な要求として対応します。 ○なお、不当要求行為と取り扱われたことに対し、無作法・侮辱手的行為があった場合は、競技規則に示す不法な行為に対する罰則対応をとることとなりますので、審判員の確認行為のミスが罰則対応とならないよう注意してください。 ○審判員はサービス許可の吹笛前に両ベンチからの要求等がないかを確認することは必要不可欠な確認行為の一つです。 ○タイムアウトや選手交代を要求する場合は、主審・副審に公式ハンドシグナルに加え口頭で意思表示を行い、見逃されないようにすることも必要です。</p> <p style="text-align: right;">ルール：Ⅲ-5-(3)-1)・Ⅲ-5-(4)-①・Ⅳ-1</p>

Q & A	
<p>公式ハンドシグナルを用いず、口頭のみでの競技中断の要求は認められるか。</p>	<p>○認められません。不当な要求同様に却下します。  ○不当な要求の再発を防止するため、口頭での要求と公式ハンドシグナルを示すよう伝えます。</p> <p style="text-align: right;">ルール：Ⅲ-5-(3)-1)</p>
<p>不当な要求行為への具体的な対処方法はどうか。</p>	<p>○不当な要求を求められた審判員は、公式ハンドシグナルには示されていませんが、片方の手の平を相手方に示し「止まれ」「やめなさい」という意味のシグナルを出してください。  ○合わせて、不当な要求の再発を防止するため、必要な指導を口頭で行ってください。  ○不当な要求を正当な要求と誤解し審判員が吹笛し、公式ハンドシグナルで要求手続きを開始した場合は、審判員の誤りであっても、要求したチームの不法な行為として処分されることになるので、審判員は冷静に対応してください。</p>
<p>注解：②遅延目的の要求とは、具体的にどのような行為か。</p>	<p>○不当な要求として却下されたにもかかわらず、不当な要求を繰り返した場合です。  ○不当な要求ではないが、次のケースについても口頭指導後も改善が見られない場合を想定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正規の選手交代において、明らかにコートに入る準備ができていない場合</li> <li>・タイムアウト終了の吹笛後もコート上に選手が戻らない場合</li> </ul>

改正内容	
<p>VI-1-(1)</p> <p>VI-1-第1表</p>	<p>◆罰則につながる不法な行為 軽度の不法な行為：判定に対する執拗な話しかけや競技参加者の品位を損なう言動等、試合中にプレーへの牽制、判定に影響を及ぼすような行為。</p> <p>◆罰則の段階と罰則カード 罰則段階表の「軽度の不法な行為」1回目において、カードは提示せず、チームに口頭で警告する。また、2回目において、罰則内容を警告とし、イエローカードを提示して警告する。</p>
Q & A	
<p>「質問」、「抗議」、「判定に対する執拗な話しかけ」の区別はど うつけるか。</p>	<p>○具体的例としては次のようなケースが想定されます。 「質問」と「異議」の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンタッチの判定に対して 「どの選手がワンタッチしたのか」……質問</li> <li>「誰もワンタッチしていない」……抗議</li> </ul> <p>「判定に対する執拗な話しかけ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質問した回答を不満として質問を繰り返したり、異議を繰り返すような場合</li> </ul> <p>○質問終了後、ポジションに戻りながら「へたくそ」等の暴言を確認した場合は、「競技参加者の品位を損なう言動」となり、直ちにゲームキャプテンに口頭指導を行い言動の再発を抑制してください。</p>
<p>試合中にプレーへの牽制や、判定に影響を及ぼすような行為とは。</p>	<p>○具体的例としては次のようなケースが想定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・床を叩いたり、床を強く踏み大きな音を出す</li> <li>・ボールを床に叩きつける</li> <li>・判定への異論として舌打ちする</li> <li>・判定に対して執拗にアピールする</li> <li>・相手に向かってガッツポーズをする</li> </ul>
<p>具体的な処理はどうするか。</p>	<p>○可能な限りプレーに重点を置くために、口頭での警告を主たる対応として、点数とサービス権が相手に移行する「無作法な行為」への発展を抑制するようにしてください。</p> <p>○主審は副審と当該チームのゲームキャプテンを審判台近くに呼び寄せて口頭警告を行ってください。</p> <p>○合わせて当該チームの選手やベンチに対しても注意するよう伝えることを促してください。</p> <p>○内容を確認した副審は必要に応じて記録員に内容を伝え、記録用紙に必要事項を記載してください。</p>